東邦大学医療センター大橋病院広域連携型プログラム

大橋・選択専攻科目

形成外科（４週以上）

診療科責任者：平田　晶子　　指導医責任者：平田　晶子

１．診療科における研修プログラムの特徴

・臨床研修に総合診療方式を導入することにより、全人的医療を実践できる医師としての基礎知識・手技を取得することを目的とする。研修医が選択臨床研修を行い、将来の専門性にとらわれることなく、全人的医療を視野においた基本的な診療能力を習得することを特徴とする。

２．研修期間と研修医配置予定

１）研修期間

・選択研修での研修期間は４週以上とする。（但し、２年次研修医は最大１２週までとする。）

２）研修医配置予定

・東邦大学医療センター大橋病院形成外科に配置され、臨床研修指導医のもとで、主に外来診察および入院診療に関与する。

３．到達目標

３－１：一般目標

・形成外科的で扱う疾患を有する患者の身体、心理、精神的な問題点を認識し、治療を行うための外科治療学に関連した基礎的知識を学び、その基本的なプロセスを習得する。

３－２：個別目標

３－２－（Ｉ）医師としての基本的価値観（プロフェッショナリズム）

１）社会的使命と公衆衛生への寄与

・社会的使命を自覚し、説明責任を果たしつつ、限りある資源や社会の変遷に配慮した公正な医療の提供及び公衆衛生の向上に努めることができる。

２）利他的な態度

・患者の苦痛や不安の軽減と福利の向上を最優先し、患者の価値観や自己決定権を尊重できる。

３）人間性の尊重

・患者や家族の多様な価値観、感情、知識に配慮し、尊敬の念と思いやりの心を持って接することができる。

４）自らを高める姿勢

・自らの言動及び医療の内容を省察し、常に資質・能力の向上に努めることができる。

５）診療科特有の目標

・形成外科の基本的な知識と技術を習得する。

・形成外科で取り扱う疾患を理解できる。

・形成外科一般検査および各種放射線検査の意義と適応を理解し、実施および結果判定ができる。

・形成外科に関連する診療科の知識の習得に務め、チーム医療を実践できる医師としての研修に務める。

３－２－（Ⅱ）資質・能力

１）医学・医療における倫理性

・診療、研究、教育に関する倫理的な問題を認識し、適切に行動できる。

２）医学知識と問題対応能力

・最新の医学及び医療に関する知識を獲得し、自らが直面する診療上の問題に対して、科学的根拠に経験を加味して解決を図ることができる。

３）診療技能と患者ケア

・臨床技能を磨き、患者の苦痛や不安、考え・意向に配慮した診療を行うことができる。

４）コミュニケーション能力

・患者の心理・社会的背景を踏まえて、患者や家族と良好な関係性を築くことができる。

５）チーム医療の実践

・医療従事者をはじめ患者や家族に関わる全ての人々の役割を理解し、連携を図ることができる。

６）医療の質と安全管理

・患者にとって良質かつ安全な医療を提供し、医療従事者の安全性にも配慮することができる。

７）社会における医療の実践

・医療の持つ社会的側面の重要性を踏まえ、各種医療制度・システムを理解し、地域社会と国際社会に貢献することができる。

８）科学的探究

・医学及び医療における科学的アプローチを理解し、学術活動を通じて、医学及び医療の発展に寄与することができる。

９）生涯にわたって共に学ぶ姿勢

・医療の質の向上のために省察し、他の医師・医療者と共に研鑽しながら、後進の育成にも携わり、生涯にわたって自律的に学び続けることができる。

10）診療科特有の目標

・外来診療において、診断のついていない初診患者から適切に情報を収集し（医療面接、診察、簡単な臨床検査）、病態の把握、診療計画の策定ができる。

・手術室において、術野の消毒・手洗い・ガウンテクニック・手袋装着等の感染対策ができる。

・外傷、熱傷例に対し、迅速かつ的確な処置を行うことができ、特殊例では、臨床研修指導医のもとに治療にあたることができる。

３－２－（Ⅲ）基本的診療業務

１）外来診療

・頻度の高い症候・病態について、適切な臨床推論プロセスを経て診断・治療を行い、主な慢性疾患については継続診療ができる。

２）病棟診療

・急性期の患者を含む入院患者について、入院診療計画を作成し、患者の一般的・全身的な診療とケアを行い、地域医療に配慮した退院調整ができる。

３）初期救急対応

・緊急性の高い病態を有する患者の状態や緊急度を速やかに把握・診断し、必要時には応急処置や院内外の専門部門と連携ができる。

４）地域医療

・地域医療の特性及び地域包括ケアの概念と枠組みを理解し、医療・介護・保健・福祉に関わる種々の施設や組織と連携できる。

４．方略

４－１：研修方略

１）外来・手術診療

・外来責任者および外来担当医師について研修を行う。外来診察・処置を通じ、形成外科的基本診察手技を学ぶ。

・外来手術に助手として参加し、形成外科的基本手技を学ぶ。

２）病棟診療

・病棟責任者および病棟チーフについて研修を行う。臨床研修指導医および上級医の指導のもとに、５名程度の患者を担当し、全身管理・処置・検査などにつき指導を受ける。

・入院患者がICU/HCU等に収容された場合には、臨床研修指導医のもとに担当医と協力し治療にあたる。

・手術症例では一般形成外科領域の待機手術患者では、診断、術前検査および準備、周術期管理を学ぶ。

・外傷や熱傷などの緊急入院患者では、鑑別診断、必要な検査、検査結果の解釈、治療計画、患者への説明、手術同意、周術期管理などについて学ぶ。

３）当直

・オンコール体制のため状況を見極め対応する能力を身につける。

４）手術室

・研修医は主に助手として、臨床研修指導医とともに手術日に３−４件程度、手術へ参加する。

・手術室への入室や安全確認の手順（患者誤認・左右取り違えなど）を学ぶ。

・術野の消毒、手洗い、ガウンテクニック、手袋装着の手技を習得する。

・形成外科で用いる器具を理解し、その操作が正しくできる。

・皮膚・軟部組織の縫合や糸結び、剪刃の使用法などの外科的な基本手技を習得する。

５）カンファレンス・勉強会等

・術前、術後カンファレンス（毎週火曜日午前）

手術予定患者の提示を行い、術式、術後管理・ケアなどにつき検討を行う。

術後患者に関しては行われた手術の術式詳細および術後の状態を提示し検討を行う。

・抄読会（不定期１回/月）

受け持ち患者の術式などに関して、必要な海外文献の要約を発表する。

・院外症例検討（不定期１回/３ヶ月）

医療センター３病院および、関連病院での症例を持ち寄り、術式などの検討を行う。

<u>※「経験すべき症候（29 症候）」および「経験すべき疾病・病態（26 疾病・病態）」の経験について</u>

・医師臨床研修指導ガイドラインで挙げられている「経験すべき症候（29 症候）」および「経験すべき疾病・病態（26 疾病・病態）」については、各研修分野で該当するものを外来診療または病棟診療（合併症含む）において自ら経験する。「経験すべき症候（29 症候）」および「経験すべき疾病・病態（26 疾病・病態）」の詳細については下記参照のこと。

・上記の症候、疾病・病態を経験したことの確認については、各研修分野の臨床研修指導医による病歴要約の確認、および卒後臨床研修／生涯教育センターにおいて全研修医の病歴要約の確認をもって実施する。

４－２：経験すべき症候（29 項目）

【※経験できる可能性　◎：ほぼ経験できる ／ ○：機会があれば経験可能】

項目	研修期間			項目	研修期間		
	4 週	8 週	12 週		4 週	8 週	12 週
①ショック	○	○	○	⑯下血・血便	○	○	○
②体重減少・るい痩	○	○	○	⑰嘔気・嘔吐	○	○	○
③発疹	○	○	○	⑱腹痛	○	○	○
④黄疸	○	○	○	⑲便通異常（下痢・便秘）	○	○	○
⑤発熱	○	○	○	⑳熱傷・外傷	◎	◎	◎
⑥もの忘れ	○	○	○	㉑腰・背部痛	○	○	○
⑦頭痛	○	○	○	㉒関節痛	○	○	○
⑧めまい	○	○	○	㉓運動麻痺・筋力低下	○	○	○
⑨意識障害・失神	○	○	○	㉔排尿障害（尿失禁・排尿困難）	○	○	○
⑩けいれん発作	○	○	○	㉕興奮・せん妄	○	○	○
⑪視力障害	○	○	○	㉖抑うつ	○	○	○
⑫胸痛	○	○	○	㉗成長・発達の障害	○	○	○
⑬心停止	○	○	○	㉘妊娠・出産	○	○	○
⑭呼吸困難	○	○	○	㉙終末期の症候	○	○	○
⑮吐血・喀血	○	○	○				

４－３：経験すべき疾病・病態（26 項目）

【※経験できる可能性　◎：ほぼ経験できる ／ ○：機会があれば経験可能】

項目	研修期間			項目	研修期間		
	4 週	8 週	12 週		4 週	8 週	12 週
①脳血管障害				⑭消化性潰瘍			
②認知症				⑮肝炎・肝硬変			
③急性冠症候群				⑯胆石症			
④心不全				⑰大腸癌			
⑤大動脈瘤				⑱腎盂腎炎			
⑥高血圧				⑲尿路結石			
⑦肺癌				⑳腎不全			
⑧肺炎				㉑高エネルギー外傷・骨折	◎	◎	◎
⑨急性上気道炎				㉒糖尿病			
⑩気管支喘息				㉓脂質異常症			
⑪慢性閉塞性肺疾患（COPD）				㉔うつ病			
⑫急性胃腸炎				㉕統合失調症			
⑬胃癌				㉖依存症（ニコチン・アルコール・薬物・病的賭博）			

４－４：経験すべき診察法・検査・手技等

【※経験できる可能性　◎：ほぼ経験できる ／ ○：機会があれば経験可能】

項目	研修期間			項目	研修期間		
	4 週	8 週	12 週		4 週	8 週	12 週
①気道確保	○	○	○	⑱胃管の挿入と管理	○	○	○
②人工呼吸（BVM による徒手換気を含む）	○	○	○	⑲局所麻酔法	◎	◎	◎
③胸骨圧迫	○	○	○	⑳創部消毒とガーゼ交換	◎	◎	◎
④圧迫止血法	◎	◎	◎	㉑簡単な切開・排膿	◎	◎	◎
⑤包帯法	◎	◎	◎	㉒皮膚縫合	◎	◎	◎
⑥採血法（静脈血）	◎	◎	◎	㉓軽度の外傷・熱傷の処置	◎	◎	◎
⑦採血法（動脈血）	◎	◎	◎	㉔気管挿管	◎	◎	◎
⑧注射法（皮内）	◎	◎	◎	㉕除細動	○	○	○
⑨注射法（皮下）	◎	◎	◎	㉖血液型判定	○	○	○
⑩注射法（筋肉）	◎	◎	◎	㉗交差適合試験	○	○	○
⑪注射法（点滴）	◎	◎	◎	㉘動脈血ガス分析（動脈採血を含む）	○	○	○
⑫注射法（静脈確保）	◎	◎	◎	㉙心電図の記録	○	○	○
⑬注射法（中心静脈確保）	○	○	○	㉚超音波検査（心）	○	○	○
⑭腰椎穿刺	○	○	○	㉛超音波検査（腹部）	○	○	○
⑮穿刺法（胸腔、腹腔）	○	○	○	㉜診療録の作成	○	○	○
⑯導尿法	◎	◎	◎	㉝各種診断書の作成（死亡診断書を含む）	○	○	○
⑰ﾄﾞﾚｰﾝ･ﾁｭｰﾌﾞ類の管理	◎	◎	◎				

４－５：当科の研修で経験可能な項目

（主に３－２－到達目標（Ⅱ）資質・能力 の「10）診療科特有の目標」に関連して経験可能な項目）

【※経験できる可能性　◎：ほぼ経験できる ／ ○：機会があれば経験可能】

項目	研修期間			項目	研修期間		
	4 週	8 週	12 週		4 週	8 週	12 週
①外傷･熱傷の救急処置	◎	◎	◎	⑥皮膚外科手術	◎	◎	◎
②顔面外傷	◎	◎	◎	⑦鼻骨骨折非観血的手術	◎	◎	◎
③採皮および植皮術	◎	◎	◎	⑧足壊疽患者の診断	◎	◎	◎
④代表的な皮弁術	◎	◎	◎	⑨断端形成術	◎	◎	◎
⑤Z 形成術	◎	◎	◎	⑩難治性皮膚潰瘍	◎	◎	◎

４－６：週間スケジュール					
時間	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
午前	病棟実習	ｶﾝﾌｧﾚﾝｽ 外来実習	手術実習	外来実習	外来実習
午後	病棟実習	外来実習 手術実習	手術実習	フットケア 外来実習 手術実習	フットケア 外来実習

５：評価
１）形成外科の診療に対する基本的診察能力（態度・技能・知識）が習得されたかを PG-EPOC の『研修医評価表Ⅰ/Ⅱ/Ⅲ』を用いて、研修中に研修医が自己評価をし、研修最終週に臨床研修指導医や診療チーム構成員で他者評価をする。 ２）看護師および薬剤部門・検査部門などのメディカルスタッフからも『看護師・メディカルスタッフからの研修医評価票』を用いて他者評価を受ける。 ３）研修医が研修中に「経験すべき診察法・検査・手技等」に挙げられている項目を経験した場合は、PG-EPOC の『基本的臨床手技の登録』を用いて、研修医が自己評価をし、臨床研修指導医が他者評価を行う。 ４）研修最終週の一般外来研修時に、PG-EPOCのMini-CEXを用いて診察技能を評価する。 ５）研修最終週の症例検討会時に、PG-EPOCのCbDを用いて患者マネジメント能力の評価をする。 ６）研修最終週の外来または病棟診療において、皮膚縫合手技をPG-EPOCのDOPSを用いて評価をする。

６．指導医
・添付資料『臨床研修指導医』該当診療科の臨床研修指導医を参照のこと。

７：協力施設
※詳細は臨床研修病院群〔プログラム冊子添付資料〕参照